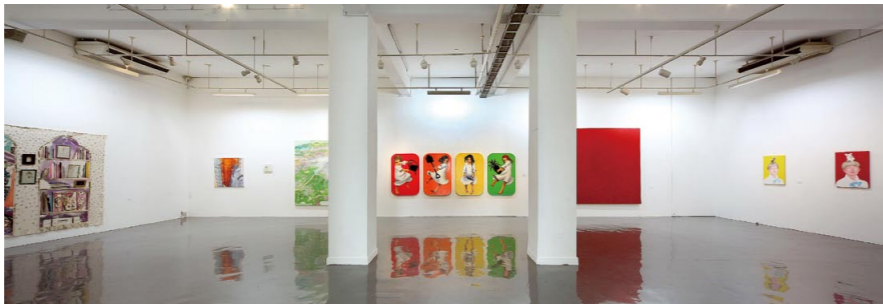


2010年度夏の企画展  
名古屋芸術大学美術学部洋画 卒業生展  
**Unique Commons**  
—わたしだけのみんなのもの—  
2010年8月17日[火]—9月2日[木]



洋画2コース 原田久教授の指揮のもと、1996年以降の洋画卒業生らのなかから縦に年代の広がりを持って25名に作品の出品を依頼、ラウンジや階段も含めた名古屋芸術大学アート&デザインセンター全室と洋画棟の一階スペースも使用するかたちで展覧会を行うことになった。  
展覧会タイトル「Unique Commons -わたしだけのみんなのもの-」は唯一無二のユニーク(Unique)な作品が並び、その恵みを鑑賞者と皆で共有する(Commons)。そんな希望を持って考えた造語である。  
国際的に発表を行っている鬼頭健吾氏の平面作品や、暴れてはく踊りのように見える少女を描く櫻井りえ氏、襲のような波のような動きを静止

した絵の具で積み上げていく畠山瑞規氏、エアブラッシュ技法で新作発表をした名知聡子氏など、絵画を主にしながら、ビデオ、立体なども展示され、サイズも高さ2m超のパネルから、葉書大ほどの紙まで様々な作品が集まった。  
会期の二週目にはアーティストトークとレセプションを開催した。トークでは来場者の前で出品作家同士が作品への思いを言葉にするという場になった。来場者の方のアンケートにはトークの機会がもっと多くあれば嬉しいと記されていた。  
以後、記録誌の発表を持って更に多くの共有を起こそうと考えている。  
村田 仁 洋画助手

**FUTURE EVENT 01** メディアデザインコース 作品展2010



2010年12月10日[金]—12月15日[水]  
「メディア」とは何か、「メディア」によって伝えることはできるか?  
この展覧会は、「メディア」と「観客の参加」をテーマに映像からインスタレーション作品、ライブイベントまで多様な表現方法を試みます。作品は体験型です。皆さんの積極的な参加によって、作品のかたち、意味が変化していくことになるでしょう。

**FUTURE EVENT 02** 「アフター・レミセン#12;石倉悦加×加藤美奈子」展



2011年1月28日[金]—2月1日[火]  
1999年より毎年、デンマーク ブランデ市のレミセン・アカデミーとの交流で開催している展覧会。5月にはデンマークから2名の平面作家を招き、7月にはデンマークに本学卒業生作家が招かれ、それぞれアーティスト・イン・レジデンスに参加し、制作した作品の展覧会を開催しています。  
今年度本学から招かれた2名の作家による帰国報告展に、ぜひ足をお運びください。

- Open 12:15-18:00 (最終日は17:00まで) 日曜・祝日休館 入場無料 どなたでもご覧いただけます。スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。
- 9/15 金 → 9/21 木 「版の方法論#5;パンコクと名古屋から」展
  - 9/24 金 → 9/29 木 吊り下げ荷重300gまで 立体造形コース3年生作品展
  - 10/ 1 金 → 10/ 6 木 小林尚美展 田中千世子展 卒業生たちの今、テキスタイルを学ぶ先にあるもの。展
  - 10/ 8 金 → 10/13 木 大学院同時代表現研究(洋画)展
  - 10/11 祝 → 10/13 木 ア"ーツ!ラジオ a"aarts! RADIO
  - 10/15 金 → 10/20 木 「Art & Earth Environment~地球環境と美術~」展 「Hand Hospeace~医療と美術~」展 名古屋芸術大学大学院洋画制作展
  - 10/22 金 → 10/27 木 「遭遇するドローイング;ハノーファー×名古屋2010」展
  - 10/29 金 → 11/ 3 木 彫塑コース作品展
  - 11/ 5 金 → 11/10 木 2010年度秋の企画展 デザイン学部特別客員教授 萩原修ディレクション 5つのプロジェクトファーム「デザインのしゅへん」展 ※会期中無休
  - 11/12 金 → 11/24 木 メディアコミュニケーションデザイン&アート展 <MCD departmnt>
  - 12/ 3 金 → 12/ 8 木 2010年度 後期交換留学生作品展 「幼稚園児たちのゲイジツ」展
  - 12/10 金 → 12/15 木 メディアデザインコース作品展2010
  - 12/17 金 → 12/20 月 工芸領域学生展覧会
  - 1/ 7 金 → 1/12 木 日本画3年作品展
  - 1/14 金 → 1/19 木 美術学部コース展
  - 1/28 金 → 2/ 1 火 「アフター・レミセン#12;石倉悦加+加藤美奈子」展

編集後記  
朝晩の空気の冷たさを感じる秋の気配など、この夏では想像すらできませんでした。こうしてめぐる時の余韻にひたる間もなく、夏に続いて秋の企画も着々と進行中です。見過ごしてしまいうような小さな秋を探しに、ひとつ展覧会へ出かけてみませんか。  
吉安恵子(アート&デザインセンター)



最寄りの交通機関をご利用の場合  
名鉄大山線(地下鉄鶴舞線乗り入れ) 徳重 名古屋芸術大学下車西約1,000m徒歩15分  
※金沢一幸会電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください  
中部国際空港からも名鉄大山線をご利用ください  
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります  
自動車をご利用の場合  
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分。

Association of Japanese Universities  
ACCREDITED  
2006.4~2011.3  
大学基準協会認定マーク  
本学は2006年4月に認定評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。  
認定期間は2006年4月から2011年3月までです。  
これによって法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

**名古屋芸術大学 Art & Design Center**  
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL:0568124-0325 FAX:0568124-2897  
Ble Vol.29  
発行日 2010年10月29日  
発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター  
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp  
2010 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of Arts デザイン/印刷 サンメッセ株式会社

デザインを  
Future Directions in Design

ディレクションする



ディレクションの可能性

毎年 指導するスペースデザインコースを中心にコンペや展覧会などに参加しているが、今年度は特にいくつかを積極的に働きかけ企画した。一つはあいちトリエンナーレ関連事業で、長者町にある伏見地下街にコインロッカーをRe-designし、学生の作品を展示するギャラリーにした。また、デザイン学部の客員教授にお招きした萩原修氏のワークショップでつくった作品を、守山のインテリアショップCONNECTの店先を借りて展示販売した。そこで学生が、現地の設営から受付、販売までを通して体験することで、どんな場所、場面で誰をターゲットにどんなものをつくり、どう伝えることが必要かを直に感じ取り、次の制作に積極的に反映させていく。何かを生み出す過程でのこういった「ディレクション」がいかに重要かを今日、改めて考えることになった。  
最近いろいろところで耳にするデザインやアートディレクションという仕事。今までは見えてこなかったディレクターの個人名。誰が手がけたか、そのモノ以上に話題になる時代。彼らは何をデザイン

しているのか。現状打開のために切実にデザインを必要としている地域や人、会社は確実にある。また意志を持って提案していく能力のあるデザイナーも存在する。プロジェクトごとに目的を徹底的に検証し、具体的に戦略やコンセプトを決定、その両者を結びつける。そこからさらにプラスアルファを生み出せるか、モノをデザインすることと同じくらい、そういったことが重要な時代である。  
またさらに現代は、コンテンツを送り出す側以上に、受け取る側にもディレクション能力が求められている時代ともいえる。自分の手で発信される情報を精査し、組み合わせ、価値を見いだす。日常生活に関わる局面でいかにその能力を活用できるか。「生活デザイン」は、これからの個人のディレクションの大きなモチーフである。自分の人生をよりよく生き、なりたいた自分がかたちにしていくため、「ディレクション能力」は、もうディレクターという専門職にだけ求められるものではない時代になった。  
駒井貞治 スペースデザイン選択コース 講師、建築家



# デザインを ディレクションする

Future Directions in Design

アート&デザインセンターの秋の企画展は、デザイン学部の2010年の特別客員教授 萩原修ディレクションによる5つのプロジェクトファーム「デザインのしゅうへん展」です。デザインディレクター萩原修が手がけた、プロジェクトの成立や背景の紹介、そこで生まれたプロダクトの展示、そしてギャラリー内に会場デザイン担当の寺田尚樹指導のもとスペースデザインコースの学生がショップを作り商品の販売をします。

## 「デザイン」の周辺でできること

あたりまえだけど、「デザイン」でできることは限られている。でも、「デザイン」を使ってできることは、まだまだたくさんある。

ぼくは大学の時に、自分では「デザイン」しないことに決めた。まわりに、自分よりも表現のうまい人がいたからだ。それでも「デザイン」を学び「デザイン」周辺の仕事をしようと思った。それ以来、社会に「デザイン」を活かす方法を考え続けている。

最初に勤めた印刷会社で10年間、企業のカatalogや会社案内、カレンダーなどの企画制作をした。転職した次の10年間では、住宅関連施設で、「デザイン」の展覧会を300以上担当した。どちらも、様々な「デザイナー」といっしょに仕事をしてきた。

2004年に独立してから6年間は、「プロジェクトファーム」という考え方で活動している。「デザイナー」や「メーカー」、「売る人」や「伝える人」。そして「つかう人」といっしょに、プロジェクトに関わりたいと思う人だけが参加できるしくみだ。

ぼくの気分は、みんなで土を耕し、種を巻いて、水をやり、作物を育てている感じだ。この展覧会では、ぼくが手がける5つの「プロジェクトファーム」とそこで実った果実を紹介したい。どの実も信頼するデザイナーが育てたおいしいものばかりだ。

デザインのしゅうへんで、できることはまだまだたくさんある。デザインのしゅうへんを、もっと喜びにあふれるようにしたい。

萩原 修

## 2010年度 秋の企画展 名古屋芸術大学特別客員教授 萩原 修ディレクション 5つのプロジェクトファーム「デザインのしゅうへん展」

2010年11月12日[金]— 11月24日[水]

会期中無休 入場無料  
12:15~18:00(最終日17:00まで)  
名古屋芸術大学 アート&デザインセンター  
企画・ディレクション・テキスト: 萩原 修  
会場デザイン: 寺田尚樹  
グラフィックデザイン: 三星安澄

### トーク&ディスカッション「デザインの周辺をめぐる」

11月12日[金] 16:30~18:00 入場無料 B棟大講義室

出演 萩原 修(デザインディレクター)  
林 裕輔(デザイナー/ドットデザイン) <http://www.drill-design.com/>  
安西葉子(デザイナー/ドットデザイン) <http://www.drill-design.com/>  
磯野梨影(プロダクトデザイナー) <http://pear-ds.com/>  
寺田尚樹(建築家) <http://www.teradadesign.com/>  
三星安澄(グラフィックデザイナー) <http://www.az-3.com/>

進行 駒井貞治(建築家、名古屋芸術大学デザイン学部講師)

名古屋芸術大学創立40周年特別公開講座  
後援: 名古屋芸術大学後援会

### オープニングレセプション

11月12日[金] 18:30~20:30

**かみのみ**  
<http://www.kamimino.jp/>  
美濃紙メーカーと女性デザイナーによるプロジェクト



「てみやげぶくろ・noshi」磯野梨影  
「つながるモビール・とりとりこり」のぐちようこ  
「建築模型添景セット」寺田尚樹  
「紙の壺」梶本博司

はぎわら しゅう  
**萩原 修**  
デザインディレクター  
1961年生まれ。東京国立育ち。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。大日本印刷、リビングデザインセンターOZONEを経て、04年に独立。日用品、住宅、店舗、展覧会、イベント、コンペ、書籍、雑誌、WEBサイトなどの企画、プロデュースを続ける。また、「コード・モノ・コト」「かみのみ」「てぬコレ」「かみのみ」「中央線デザイン倶楽部」「国立本店」「カンケイデザイン研究所」など独自のプロジェクトを推進。「SIDE」「旭川水エコミュニティキャンプ」「イズモザキくらしの学校」「スキダラーキョー」「クラフト・センター・ジャパン」「東京にしがわ大学」などにも参加。著書に「9坪の家」「オリジンス」「デザインスタンス」「コードものとうくほこ」などがある。05年には実家のあとを継ぎ「つくし文具店」店主になる。  
<http://www.tsu-ku-shi.net>

## 展覧会で紹介する5つのプロジェクト

**つくし文具店**  
<http://www.tsu-ku-shi.net/>  
つくし文具店 つながるくらしとしごとをテーマにしたプロジェクト



©tsukushi

**Codo mono Coto**  
コード・モノ・コト  
<http://www.codomonocoto.jp/>  
コードものいっしょの暮らしを考えるプロジェクト



「こわか」小野里奈

**てぬコレ**  
<http://www.tenukore.com/>  
てぬぐいのコレカラを提案するプロジェクト



# PREVIEW

## 岩井義尚木彫展2010

2010年9月5日[日]— 14日[火]

名古屋芸術大学アートスペース  
T.A.G. IZUTO



会場風景



「Form1001」

名古屋芸術大学アートスペース T.A.G. IZUTO での個展は、今年で3回目である。木彫による2010年以降の立体6点、レリーフ7点とドローイング7点の新作による発表を行った。

展示作品は、制作のテーマを「流れ」「動き」とし、形の根源を動物(人物を含む)・植物・自然現象から創作要素を探りながら構成した。素材の木を彫ることで形(Form)を具現化した立体とレリーフ作品、なかでも原木の持つ存在感・力強さ及び素材感を活かして形をチェーンソーで彫り出した立体構成作品(「Form 1001」)を展示。厚さ20mm程の板材によるレリーフ状作品は、人体を単純化した形で切り抜いたモノを、幾何学的な板材と組み合わせ「対比」を表現した。 岩井義尚 美術学部教授

**INFORMATION**  
名古屋芸術大学 アートスペース  
**T.A.G. IZUTO**  
昨年より無彩色の明るい床面になり、壁面と合わせ木の持つ本来の色・形などが良く見え、作品の展示しやすいスペースに改装された。会場使用期間の責任者は、展覧会に関する全ての管理責任を負う事になるが、栄の中心部で活動を紹介できる有効なアートスペースである。

地下鉄栄駅1番出口より徒歩5分、  
いづ藤ビル2F

## 名古屋芸術大学デザイン学部「伏見地下街ギャラリー」

2011年3月31日[木]まで  
名古屋市 地下鉄伏見駅東改札口  
開廊営業時間: AM7:30—PM8:30  
日曜休廊



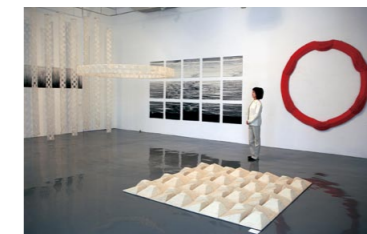
ギャラリー風景

伏見地下街にあったあいちトリエンナーレプレ事業の事務局跡スペースに、期間限定の名古屋芸大デザイン学部サテライトギャラリーがオープンしました。伏見地下街は昭和32年開業、長者町繊維街と地下鉄を結ぶ昭和の雰囲気を残した地下街です。東山線伏見駅構内から直結した240mのストリートに、名芸ギャラリーをはじめトリエンナーレの企画コンペ作品の展示やオルタナティブギャラリーが出現し、最先端アートの祭典への期待が膨らむコアスポットとして注目されています。8月17日より今年度の特別客員教授である萩原修氏の「おやつどうぐてん」がスタートし、その後はデザイン学部の10コースが展示を繋いでいきます。通常は無人スペースとなるため、スペースデザインコース制作のコインロッカーギャラリーとなります。40cm四方の箱の中に学生が授業で取組んだ課題作品が並びます。各コースの紹介もあり名古屋芸大の学生生活を垣間みていただくよい機会となりました。来年3月まで継続展示しています。 櫃田珠実 デザイン学部准教授

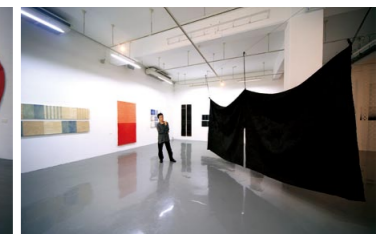
## 小林尚美展 田中千世子展

2010年10月1日[金]— 6日[水]

名古屋芸術大学アート&デザインセンター



小林尚美展 会場風景



田中千世子展 会場風景

本学の非常勤客員教授であるお二人の70年代からの代表作が展示されました。小林先生は、織りを使わない作品として糸を積み重ねたり、円環にめぐらせた作品などを発表。また、和紙やこよりを素材にし軽やかに陰影感のある立体を展開。さらに習字した紙をカットしてこよりにしそれを織物にした作品を作成。白黒という色を用いながらまるで風景を写したかのような感覚と、和紙とこよりの素材から日本的な美的感覚を感じさせ、見る者に驚きを与えます。田中先生は、織物の経糸と緯糸が水平・垂直に交わるという有様を原点にシルクスクリーンで表現。また、生地に泥をのせて、それがしみ出していくプロセス、つまり時間軸を根底に力強い作品を展開。岩肌のテクスチャーを写し取った作品などいずれもプロセス自体が作品に近づいていくという、ダイナミックかつ繊細な作品が並びました。'テキスタイル'とはこんなにも幅広い世界をもっているのかと新鮮な感動をもたらす企画展でした。 宮治珠里 デザイン学部非常勤講師

## ART WORDS FROM THE ART WORLD

### 芸術一話 第5話 謎を生み出す勇氣



P3 art and environment  
エグゼクティブ・ディレクター  
**芹沢高志**  
Takashi SERIZAWA

最近では、ほとんどブームと言って良いほど、全国各地でアート・プロジェクトが盛んに行われているけれど、それでも「アート? わかんない」というのが、ごく一般的な反応だろう。ここで「わかんない」とは、否定的な意味で使われている。しかし、わからないことはそんなに悪いことなのか? 現在では、政治の世界でも単純明快な「ワンフレーズ」が求められる。企業では説明責任、A4一枚ですべてを言い尽くせと要求される。意味もなくわからなくするのは馬鹿げた話だが、しかしわれわれが生きていくこの世界は、わからないことばかりじゃないか? 不思議なこと、不可解なこと、謎、不条理に満ちている。そこからわれわれは好奇心や想像力を、科学や芸術を育ててきた。そんな謎のささやきには

耳を塞いで、人は「わかること」だけでできた世界に生きたいのだろうか? アートはわれわれにとって、きわめて刺激的な想像力のレッスンだ。知っていれば格好がつく教養、気取った趣味や金持ちの道楽、あるいは投資の対象などではない。アートをそんなふうにはか捉えてこなかったことが、想像力の縮退を引き起こし、現代の閉塞感を生んでいる。だからアートを志すみなさんには、自信を持って事に当たって欲しい。わかりやすい作品をつくるより、新たな謎を生み出す勇氣を持って欲しい。経済や都市・地域の縮退が問題にされるが、私には想像力の縮退の方が、より重要かつ深刻な問題であるように思えるからだ。